

新設の航空機拘束制動装置、横田の即応力を維持(1)

Newly installed AAS maintains Yokota's readiness

January 19, 2021

By Staff Sgt. Gabrielle Spalding
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真1)横田基地で1月13日、新設された航空機拘束制動装置のフライトライン・バリア・アレスティング・キットBAK-12の初回認証試験で、バリア・ケーブルに接近する三沢基地第35戦闘航空団のF-16DJファイティングファルコン。

テールフックが航空機拘束制動装置のケーブルを捕捉し、緊急着陸時に機体を急速に減速させる。BAK-12システムの認証を取得することにより、横田は有事の際に戦闘機を受け入れることが可能になる。



(写真2)新設された航空機拘束制動装置のBAK-12を操作する第374施設中隊消防署の消防士たち。

BAK-12システムは、米空軍の航空機拘束制動装置の要件を満たすために10年ごとに交換され、新システムが完全に機能し、安全であることを確実にしている。



(写真3)新設された航空機拘束制動装置のBAK-12の初回認証試験で、バリアケーブルを捕捉する三沢基地のF-16DJファイティングファルコン。

航空機拘束制動装置は、航空機のテールに取り付けられたアレスティング・フックを使用して、短距離での着陸が必要な場合に航空機を安全に減速・停止させる。今回の認証試験でBAK-12が完全に機能することを確認することで、インド太平洋地域における横田の多機能な運用力が強化される。



新設の航空機拘束制動装置、横田の即応力を維持(2)

Newly installed AAS maintains Yokota's readiness

January 19, 2021

By Staff Sgt. Gabrielle Spalding
374th Airlift Wing Public Affairs

(写真4) 1月13日、横田基地で行われた航空機拘束制動装置のBAK-12の初回の認証試験で、オペレーターに手信号を送る第374施設中隊消防署の消防士。

BAK-12システムは、米空軍の要件を満たすため、10年ごとに交換される。バリアケーブルが完全に回収されるまでに移動しなければならない距離を示すために手信号で示される。



4

(写真5) 認証試験を終え、新設された航空機拘束制動装置BAK-12のテープを確認する第374施設中隊の空兵。この試験では、緊急着陸や離陸中止時に航空機を安全に減速・停止させるシステムの安定性を認証した。



5

(写真6) 新設された航空機拘束制動装置BAK-12の正しい操作方法を見習いの第374施設中隊電力生産部エリック・クリステンソン空兵(右)に指導する同部のザック・シェラー軍曹(左)。



6